

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ A-1ユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成30年11月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0173700311-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが生き生きと生活力を発揮できるように職員は支援している。ホーム主体の事例検討会や勉強会を企画し実施している。また、年間を通して外部研修への参加をすすめて資質向上に努めている。そして職員の資格取得に協力している。
法人病院や協力医療機関、歯科衛生士、理学療法士との連携を継続して日々の状態把握に努め健康管理を徹底している。
利用者、家族が安心して生活を送れるようこれからも努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊達市にある3ユニットのグループホームである。周辺は閑静な住宅地で、高速道路のインターチェンジから車で2分程度と利便性が高い。緑が多く、有珠山などの山々も眺められる豊かな環境である。建物は、ガラス張りの開放的な玄関ロビーを中心に、入って右側に1階建て1ユニット、左側に2階建て2ユニットがある。どのユニットも共用空間、居室とも広く、明るい。畳の小上がりコーナーも設置されている。利用者はゆったりとした環境で自分のペースで生活することができる。職員も利用者の尊厳を尊重し、優しく対応している。家族との関係では、年に1回、家族の懇親会を開き、意見を御得て運営に活かしている。また、ケアプランを詳しく家族に説明し、直接ケアプランに要望の記入を受けている。職員は理念をよく理解して日々の介護にあたり、自己評価についても各ユニットで職員が参加し、作成している。利用者は気軽に外出することができ、周辺の散歩や外気浴の他、職員と一緒に自宅や馴染みの理美容室に出かけたり、家族と一緒に水族館や漁港を見に行くことができている。受診支援の面では、往診体制を整えるとともに、他の通院も概ね事業所で支援している。また、個々の受診記録を適切に整備している。快適な環境で安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示し職員、入居者と共有している。また、玄関、スタッフルームにも掲示し、職員は常に意識できるようにしている。	理念と方針を定め、理念に「地域社会に貢献する」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念を共用空間やユニット休憩室に掲示し、職員は常に理念を見て確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練の協力や花壇作りで交流している。また、地域のお祭りへも出向いている。自治会に加入しねねむ新聞を回覧して様子を知っていただいている。	自治会の行事は少ないが、地域に事業所のたよりを回覧して理解を促し、運営推進会議等には自治会関係者が多数参加している。事業所の花壇は地域の方が世話をしている。今後は近くにある保育園との交流を進める意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的実施し、利用者様の状況を報告したり、ホームページを開設して日ごろの活動の様子をお知らせし、認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や外部評価結果を報告し会議内容については、後日全職員に文章で報告されている。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、市や自治会関係者、複数の利用者家族の参加があり、防災や感染症、外部評価、年度計画などをテーマに意見交換している。家族に議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は、運営推進会議や、避難訓練に参加して頂き、その都度相談できるような関係作りに努めている。	運営推進会議に市役所職員の参加を得て情報提供を受けている。市と連携して、高齢者地域見守り活動に協力したり、法人が認知症カフェを運営し、事業所職員が運営に関わっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止対策会議で毎月各ユニットの事故報告等を検討し適切なケアが提供されるよう話し合いを行っている。玄関の施錠は夜間と緊急時等の事務所不在時のみである。	禁止の対象となる11項目の具体的な行為が記されたものを職員休憩室に掲示し、職員の理解を促している。毎月の事故報告会議の中で各ユニットで身体拘束がないか確認している。玄関は週末や夜間に施錠することがあるが、普段は自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、利用者の身体の内出血や傷を見過ごさず、ユニット会議や事故防止対策会議で話し合い、虐待の防止に努めている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解は各職員でばらつきがある為、積極的に研修に参加したり、学びの場を設けるなどして、ユニット職員の制度に対する理解度を高める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を確認して頂きながら、説明を行い契約を交わしている。改定時は文章のお知らせだが、個別で料金がわかるよう提示している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接の時の意見や要望は職員間で情報を共有するようにしている。エントランスに意見箱を設置し意見や要望を頂けるようにしている。	家族が来訪した際やケアプラン相談時に意見を聞き、ケアプランに希望の記入を受けている。年1回、家族が意見交換を行う「ふれあいの会」を開催し、職員も意見を聞いている。家族の意見は「相談・苦情・要望」記録で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングの時間等に意見を出し合ったり、ユニット会議でそれぞれの意見を述べる事ができる。	毎朝のミーティングと定期的ユニットごとのカンファレンスで意見交換している。職員はいつでも管理者と相談することができる。また、職員は新聞作成や事故報告、レクリエーションなどの係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい労働環境、条件を整備している。資格取得に協力したり、向上心を持ち働ける工夫がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて研修の案内が多く提示されている。関心がある研修には参加できるよう配慮されている。勉強会、事例検討会を開催しスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム連絡会や認知症カフェ等に参加して近隣の同業者と交流する機会を持ったり、ネットワーク作りを行っている。法人内研修でも交流を図っている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面接を行い不安なく入居できるように本人の気持ちや要望等を傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず家族と面談を行い心配なことや要望などを伺い一諸に支援していく関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と入居前の把握に努めその時に必要なサービス提供に柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの状態、希望等に合わせて食事作りや生活上の活動を共に協力しあって暮らしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に受診の付き添いをして下さったり、外食や外出をされたり、面会の際には近況報告をする等し、共に本人を支えていく関係を築けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの床屋やお店、お墓参りへ行けるよう支援している。また面会に来られた際には気兼ねなく自室でお話をして頂いている	5～6名ほどの利用者に近所に住んでいた方や卓球仲間などの友人が来訪している。6～7名の方は職員と一緒に馴染みの理美容室に通っている。利用者が自宅に物を取りに行く際に職員が同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間にはお話ができるよう場をもうけ、ゲームをしたり楽しめる。口論やトラブルがあった際には職員が間に入り関係が損なわれないよう注意している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要があれば相談に応じるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握に努め、自己選択、自己決定を促す支援を心掛けている	言葉で思いを表出できる方は半分程度で、難しい方の場合も表情や過去の経験から意向を把握している。センター方式のアセスメントシートを作成しているが更新は行っていない。	利用者の趣味や嗜好、希望などを継続的に把握するため、センター方式の「B-3」「D-1」「D-2」シートを中心に、定期的に追記や更新を行うことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から情報提供して頂き、不明な部分は繰り返し尋ねながら経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の過ごし方を申し送りして把握し記録や連絡ノートを活用し現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の姿と照らし合わせて無理のない介護計画をカンファレンスやモニタリング、アセスメントを活用しながら作成している。家族、必要な関係者の意見、要望は介護計画に反映させている	介護計画を3か月毎に更新している。生活機能評価シートをもとにカンファレンスを行い、計画を見直している。日々の記録は介護目標の番号を記載するようにしているが、十分といえない。	日々の記録について、介護目標に対する支援内容がわかるよう、より意識して目標番号を記載しながら記録を行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、日誌を利用して情報共有を図っており、実践にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法事やお墓参りなどへの付き添い、外出の支援等、職員の勤務調整をしながら柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や、法人内のお祭りに出かけ楽しんでいる。身障者トイレやバリアフリーとなっている場所の把握に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得ながら受診の付き添いを行っている。内科・泌尿器科の訪問診療もあり、個々の利用者に合わせて適切な医療の提供が図られるように支援している	ほぼ全員の利用者が協力医療機関による週1回の往診を受けており、その他の通院も概ね事業所で送迎している。利用者ごとの「受診記録」を作成し、職員間で共有している。	

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師の訪問があるため、利用者の体調変化の有無を報告し指示を仰いでいる。看護日誌にはその日の利用者の様子や診察内容が記載されており、職員間で情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、面会時に病院職員から様子を伺ったり、電話で情報交換を行うなど症状の把握に努め、退院に必要な受け入れが体制がスムーズに作れるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来ること、出来ないことなどを含め家族と相談しながら進めている。また、利用者家族のアンケートで希望をあらかじめ把握できるようにしている	利用開始時に「重度化及び看取り介護に関する指針」に沿って、事業所の対応可能な範囲を説明し、同意書を得ている。重度化した場合は入院となる場合が多く、過去に看取りを行っていないが、今後は看取りの体制を整える方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置しているも全ての職員が研修を受けておらず、利用者の急変時や、事故発生時に何をするか知識が薄く、訓練、実践力を身につけるための研修が必要と思う		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間と夜間想定避難訓練を毎年地域の方や市の職員にも参加協力を頂きながら行っており職員は避難方法を身につけることができていると思う	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や自治会関係者の参加のもと行い、災害時に必要な備蓄品も用意している。職員の救急救命訓練を定期的に行い、地震等火災以外についてマニュアル整備や対応方法の話し合いを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりのある言葉、難聴の方や理解力に合わせて言葉使いに努め、トイレや更衣時はプライバシーに配慮している	法人内の研修があるほか、事業所内で接遇マナーについての事例検討会を開催している。気になる言葉づかいはしないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか尋ねたり、飲みたい物を選択、決定できる機会を増やすよう意識的に作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの気持ちや希望を優先し、職員間で連携を取りながら速やかに希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の汚れや、爪、顔の手入れ、整髪に気をつけ、清潔感が保てるよう身だしなみを整えている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が共に協力しながら、食事の準備や、片づけをすることで、食事を楽しむ事が出来るよう支援している	入居者の誕生日は本人の食べたいものを事前に聞き取り提供している。個別の対応で外食したり、行事では旬の食材を取り入れ季節ごとの楽しい食卓になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事の量を調整したり、食事量にムラがある方には、経腸栄養剤を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施しており定期的に歯科衛生士の指導あり。口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	進行に伴い、尿意等の低下や声掛け誘導への抵抗もみられるが、トイレでの排泄を基本とした支援を行っている	介護記録に排泄状況を記録している。羞恥心に配慮したトイレ誘導を行い、タイミングを見計らい失敗の無いようにしている。トイレまでの誘導が難しく自室でポータブルトイレを使っている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分量、食事量も考慮しつつ下剤も使用している。ヨーグルト、牛乳、豆乳は毎日提供している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立入浴出来る方には、できるだけ希望に添った入浴が出来るよう配慮している。入浴をしないか声を掛け自己決定できるよう支援している	毎日の午後に入浴をしている。一日に3名程度が入浴しているが、希望により見守りしながら一人の時間を楽しむ方もいる。入浴を嫌がる場合は日を変えている。希望があれば同性介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に自室で眠られている時は見守りを行っている。夜間落ちついて安眠出来ない方には、温かい飲み物を提供し、安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルで個別に確認できる。処方が変わった時や臨時で受診、薬が出た時は、介護記録や受診記録ファイルで情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出をしたり、工作、歌を唄ったり、歌番組を観たり、個々の好みを取り入れた支援に努めている		

グループホームねむむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しんで頂くよう行事を行い、外出の支援に努めている。買い物や散髪の希望がある場合は支援している	事業所の周りを散歩して花壇を見たり、事業所の玄関のベンチに腰掛け外気浴をしている。カルチャー公園、藤棚、開拓記念館、漁港、水族館、洞爺湖、葡萄狩りなどに出かけている。定期的に認知症カフェに出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者は花やパンを自ら購入している。金銭の自己管理が出来ない方は預かり金から買い物が出るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際には、直接お話出来るよう支援している。また年賀状のやりとりを行っている方もいる。字を書けない方には代筆して支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとに、利用者で作成した貼り絵を飾ったり、花を活けたりと居心地よく過ごせる工夫をしている	居間には掘りごたつのある量のスペースがあり、テレビの前のソファや食卓テーブルなど自由に場所を選び過ごすことができる。ウサギを飼育しているフロアもありユニットごとに違いはあるものの、屋外からの陽が大きな開放部から入り込み暖かく居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人がけの椅子やソファなど数種類の椅子がリビングやエントランスに配置され、利用者が好きな場所で思い思いに過ごすことができるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には出きるだけ、自宅で使用していた馴染みの物や、好みのものを持ち運んで頂くよう協力して頂いている	自分の個性が出せるよう好きなものを飾り安心して暮らしている。テレビ、タンス、テーブルとイスを配置し、ぬいぐるみ、本、写真、自分の作品などを飾り、居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し安全に配慮、トイレマークをつけたり、洗面所に椅子を置いて腰掛けられるようにし、自立と安全への工夫をしている。自分の部屋だとわかるように表札をかけている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ A-2ユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成30年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの心の安定をたもつよう出来るように支援している。
食事の量や水分摂取、排泄の有無を細かく記録し、体調の変化を早期に発見できるように努めている。
スタッフ、看護師、医師、ご家族が協力、連携し、利用者様が安心して生活できるように支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0173700311-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針をリビングやスタッフルームやユニット内に掲示しており、常に目に入ることで、意識的に取り組むように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ねねむ新聞を回覧して、地域の方々に知って頂き、避難訓練にも地域の方に参加して頂いている。運営促進会議で入居者の状況を報告し、認知症への理解を深めていただくようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営促進会議で、利用者様の状況を報告して。施設の情報をホームページでも情報公開している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、外部評価の結果を職員が共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、避難訓練や関係会議に参加して頂き、相談できるような関係づくりをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止会議で、話し合い、身体拘束、言葉による拘束に対し、スタッフ全員が常に意識し、防止できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	着替えや入浴時に身体の変化や傷などの有無の確認、表情や様子、精神状態の観察をしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解は、職員によって差があるので、研修などで学べる機会をつくり、理解を高めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を確認して頂き、説明してから契約している。改正時も文書で知らせ、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に意見をスタッフが聞き取り、職員間で共有し、運営に反映するように、会議で話し合っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する情報を管理者側から説明する機会を作り、スタッフが意見を述べる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休や休憩時間は交代で取れるように調整し、働きやすい労働環境の整備をしている。資格取得のための休暇や費用の助成などの制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を呼びかけたり、定期的な勉強会、事例検討会を開催して、スキルアップに努めている。個々に合わせた介助方法は、ユニットのカンファレンスで話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事例検討会や、研修会で学ぶ機会をつくりサービスの向上に向けて取り組んでいる。又、認知症カフェを通じてネットワーク作りに努めている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行い、話し合いの機会を持ち、不安に感じている事や要望を把握し、入居後の生活を安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、質問や要望などお聞きし、心配な事があれば、そのつど説明をして、入居後安心して生活が出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、本人の状況に合ったサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、ご自分で行っていただき、一人では困難な時には、スタッフと共に行えるように支援している。一緒に食事をしたり、歓談を楽しんだりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、食事の介助など、本人への支援に参加して頂いている。受診の同行にも協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が面会に来られたときには、様子を伝えたり、ゆっくり過ごせるように配慮している。自宅で暮らしているときに共に過ごしていたペットも面会時に連れてきて一緒に過ごせるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士と一緒に過ごしたり、一緒に家事を協力して行えるようにしている。他者との意思疎通が困難な方には、スタッフが寄り添うようにしている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には、お見舞いに出向いたり、契約終了後も、必要に応じて、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話しを傾聴し、想いを抽出できるように努めている。これまでの生活や性格を出来るだけ把握し、一人ひとりの意思を尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞き取りや会話中から、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録の記入で、一日の様子、食事の量、心身の状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やスタッフと相談しあい、その時の状態に合わせて流動的に介護計画を作成している。変更が必要な時には、ご家族に確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連泊ノート等で、情報を共有し、入居者様の状態に応じて、適切なケアが出来るよう、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて時間を作り、入居者様の状態に合わせて、様々なサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているお祭りにでかけたりできるように、情報を収集している。外出先にて、車椅子でも、移動が出来るかなど、確認をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院に引き続き受診したり、ホームの協力機関の医師による訪問診療により、希望に応じて、健康管理を行っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人から週一回、看護師が訪問し心身の状態を報告、相談を行っている。法人の病院と、24時間の連絡体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のときには、入居者の状況や認知症の症状を伝え、退院時の対応についても相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者にとって良い終末期を過ごせるように家族や本人の意向を聞き、施設として可能な支援に取り組めるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。救命方法を学び、急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の方にも参加して頂き、避難訓練を行い、緊急時に対応できるように備えている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのペースに合わせた支援に努め、意思の疎通が難しい方にも、ジェスチャーを交え、理解しやすい声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のニーズを見極め、自ら決定できるような「雰囲気作り」に努めている。買い物にでかけたときなどは、買いたい物を選んでいただいたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のニーズを見極め、自ら決定できるように支援している。買い物などの場面では、好きな物を選んでいただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに合わせた、服装が出来るように支援している。髪型をととのえたり、白髪が気になる方には、毛染めが出来るように定期的に美容師さんに来ていただいている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケーキやホットケーキを一緒に作り、楽しみながら、みんなで食べたり、分担して食事の支度をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みにあわせた、食事を提供している。又、その人の嚥下機能を充分考慮した食事の形態にしている。食事、水分の量記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りしながらご自分でして頂いている。必要に応じて介助している。歯科衛生士さんによる口腔ケア指導を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの最終排泄時間を記録しており、その方に合った排泄のペースでトイレ誘導、介助をしている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、食事や水分を十分に摂取するようにしているが、機能低下の為に排便が困難な方には、その方に合った下剤の内服、調整支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や、本人の希望を聞いて入浴をして頂いている。その方が気持ちよく入浴を楽しめるように、ゆっくり会話しながら見守り、介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活に合わせ、日中でも休息を取って頂くように配慮し、体調に合わせて、無理の無い活動をして頂く事で、夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の内容を把握し、内服時は、二名のスタッフで確認してから、内服して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や創作活動や畑仕事、家事など、一人ひとり関心が有る事や楽しめる活動をしていただけるように支援している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて、ホームの周りを散歩している。家族と外出するときには、その日の心身の状態を報告し安全に楽しく過ごして頂けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要としている物や欲しい物など、買い物に行く機会を作り、買い物をたのしんで頂くように支援している。ご自分お金を持参できる方には見守りして、お金を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、家族へ電話をかけている。手紙は必要に応じて、本人の確認を読んで差し上げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは日中も電気をつけ、暗くなるのを防ぎ、転倒などの防止をしている。リビングや廊下は季節に合った飾りつけや写真をかざり、楽しめるようにしている。室温は過ごしやすい温度にエアコン、暖房で調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、畳の小上がりなどそれぞれが自分の気に入った場所でくつろげるように、スペースにゆとりを持ち配置している。車椅子を自操し移動する方も自由に移動できるように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や小物を置いたり、観葉植物をおくなどして、本人の馴染みの部屋を作って落ち着けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下やトイレに手すりを設置している。それぞれの居室には表札をつけ、トイレ浴室にもわかりやすいように標示をしている。洗面所のスペースはわかりやすいように扉を開けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O173700311		
法人名	医療法人社団優会		
事業所名	グループホームねねむ Bユニット		
所在地	伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成30年11月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0173700311-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者へのより良い支援の為に、どのようなケアが必要かを職員は常に意識しながら仕事をしている。利用者に何か変化がある時は職員だけではなく、ご家族にも早い段階で状況の連絡をするなどしている。何も無い時でも月に一回、利用者それぞれの担当職員が普段の様子を家族宛の手紙で知らせている。職員一人ひとりのスキルアップを目指してねねむの中で事例検討会や勉強会などを行ったり、資格取得を目指している職員への後押し・協力体制もできている。職員や家族・他職種と連携を取りながら利用者一人ひとりが自分らしくホームで生活できるように努めていきたいと思う。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各ユニットのリビング・スタッフルームなど目につく場所に掲示して、理念・方針を意識して取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ねねむ新聞を回覧板で見えたり、ふれあいの会や定期的な避難訓練などへの参加・協力して頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的実施し、利用者の状況・活動を報告している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や外部評価を報告し内容については、後日文章にて報告されている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議に市役所の方に参加して頂いたり、何かある時は相談するなど行う		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一回事故防止対策会議を行い、各ユニットでの事故報告書やヒヤリハットなど検討し、改善や対策を行い適切なケアを行っている。夜間・事務所不在時のみ防犯上から施錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待対応支援マニュアルをスタッフルームに設置している。研修に参加したり、変色や内出血などあった場合にはカンファレンスを行い防止に努めている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し情報の共有を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計画書を確認して頂きながら、説明を行い契約を交わしている。改定時などは文章でお知らせをし再度契約を交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き、家族からの意見が反映できるようにしている。また、ミーティングなどで解決策の話し合いを行っている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で話し合いを行い、その意見をユニット長がまとめる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のために協力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講演会に参加してもらったり、事例発表会・勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェ等交流する機会がある		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に施設に見学に来てもらったり、不安な事や要望を聞いており、その情報を共有し入居時から介助が出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安な事や要望を入居前から聞き、対応できる事・できない事を伝え不満につながらないようにする事で信頼関係を築いていけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況などを見極めて必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、感謝の気持ちを伝えて一緒に寄り添いながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族に近況を知らせる手紙を送ったり、面会時には日常の様子を伝え、一緒に外出するなど家族と共に過ごす時間を作るなどしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外に友人・知人の方が面会に来られたり、本人の馴染みの美容室・理容室に出かけるなどの支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを尊重しながら、利用者同士の関わりを見守り、時には職員が間に入って支援をしている。居室で一人で過ごす時間も大切にしている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した利用者のお見舞い行って様子を伺ったり、亡くなった時は葬儀に参列することもある			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるよう話を傾聴したり、日常生活でも意識して希望や意向を感じ取れるように関わっている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方を本人や家族から聞き、入居後も本人との会話の中から把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を介護記録にまとめ、職員同士の申し送りや情報の共有を図っている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態の変化などに応じてカンファレンスを開き、より良いケアについて話し合いをしたり、利用者一人ひとりのモニタリングを行い介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や利用者様用ノートを活用して情報の共有を図り、介護計画の見直しに役立てている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその日の体調や精神面の変化に応じて、勤務時間や人数調整をするなど柔軟に対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や認知症カフェなどへ出かけている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度内科・月に一度泌尿器科の医師の訪問診療があり、本人・家族の希望がある場合はかかりつけの医師への受診も行っている			

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来所して利用者の健康管理を行ったり、職員が利用者の様子を報告したり、分からない事・判断に迷う事などがある時は相談してアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会に行ったり、病院と連絡を取り、様子を確認している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとっての終末期を家族・職員と話し合いを行い支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施・受講、緊急時のマニュアルを作成して職員への周知を図り、何かあった場合は施設長・ユニット長へ連絡・指示を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の方にも参加してもらい、定期的に避難訓練や消火訓練などを行っている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮し、一人ひとりに合った理解しやすい言葉かけを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表出できるように分かりやすい声かけを行ったり、買物や外出など自己決定をできる機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望に沿った一日が送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出かけたり、散髪・髭剃り・爪切りなど身だしなみに気をつけ清潔感が保てる様に支援している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を取り入れたり、職員と一緒に調理や盛付・片付けなどを行ったり、自力で食事摂取できない利用者には声かけしながら介助で対応している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分量を把握し、一人ひとりに合った形態で食事を提供、食事量の低下が見られる利用者には栄養補助食品を提供、嚥下状態に応じて刻み・ミキサー・ムース食などで対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行ったり、定期的に歯科衛生士が口腔内チェックを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行うことで、気持ちよく排泄できるように支援している(トイレでの排泄が困難な利用者にはポータブルトイレを使用している)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量を把握し、自然な排便を促せるように牛乳・ヨーグルト・ココアなどを取り入れたり、本人に合った下剤を併用することで排便のコントロールを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて入浴の声かけを行い、当日に入浴されない時などは時間や曜日を変えて対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮してソファーや居室で休んで頂いたり、夜間に眠れない場合は話を傾聴する事で安心感を持ってもらい安眠につながる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をいつでも確認できる所に保管して用法・用量についての理解に努めており、服薬時は職員2名で名前や日付けなどを確認、薬の種類や量が変わった時は症状の変化などに気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や散歩・花の水やり、歌番組を見たりCDを聞くなど一人ひとりが自分に合った気分転換を図れるように支援している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を考慮しながらドライブ・散歩・外気浴を行ったり、職員や家族と一緒に買物や自宅・美容室などに出かける支援を行っている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をする事が難しくなっているが、できる利用者には自分で支払いをしてもらい見守りを行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出があった時は本人に電話をして頂いたり、自分でできない時は職員が代わってかける支援を行っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングに利用者の写真や季節感のある折り紙やタペストリーを飾ったり、数ヶ所にソファを設置し自由に移動したり座って憩う空間を作っている。室温・換気には常に気をつけ、居室やトイレなどには消臭剤を置いている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやエントランスのソファで庭や花を眺めたり、気の合う利用者同士で談話されたりお茶のみしながら過ごしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家族の写真を置いて、居心地の良い空間作り・安心して居室で過ごせるように工夫している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりを設置して安全に歩行・移動ができる様に配慮し、居室・トイレ・浴室などには表示プレートをつけて分かりやすいように工夫している			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ねねむ

作成日：平成 30年 11月 1日

市町村受理日：平成 30年 11月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思いを把握し書面に残しているが、継続的な情報蓄積が不十分である。	ご家族様の協力を得ながら作成し、変更等があれば追記し、入居者様の生活の理解に繋げていく。	入居時にはご家族様にセンター方式のシート配布して記入できる箇所を埋めていただく。また、ご本人から聞き取り可能な箇所についてはこちらで記入していく。特に、「B-3」「D-1」「D-2」内容に変更があった場合は、訂正、追加していく。	12か月
2	26	日々の記録は介護目標の番号を記載するようにしているが不十分である。	記録について介護目標を意識しながら記載する。	介護目標に対する支援内容がわかるようにより意識して目標番号を記載しながら記録を行う。	随時
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。